

平成25年度第8回教育研究評議会議事要旨

日時 平成25年12月20日（金）15時30分～17時00分
場所 大学本部2階大会議室
出席者 佛淵学長，瀬口理事，中島理事，岩本理事，宮崎理事，福本文化教育学部長，平地経済学部長，藤本医学部長，石橋工学系研究科長，渡邊農学部長，諸泉全学教育機構副機構長，遠藤教養教育運営機構長，後藤医学部附属病院副病院長，甲斐評議員，畑山評議員，大田評議員，萩原評議員，大島評議員
欠席者 稲岡附属図書館長，吉田総合分析実験センター長
陪席者 川上監事，増子評価室長

○ 前回議事要旨について

学長から，平成25年度第7回教育研究評議会議事要旨（案）を評議員に送付，確認したところ，意見のあった箇所については，修正して確定し，ホームページに掲載している旨，報告があった。

○ 審議事項

1. 国立大学法人佐賀大学医学部における教育職員の任期制の実施に係る再任の審査に関する内規の一部改正について

医学部事務部長から，医学部医学科，医学部看護学科及び医学部附属病院並びに医学部附属の教育研究組織に任期を定めて雇用する教育職員及び任期の定めのない教育職員となった者に係る業績審査の見直し及び国立大学法人佐賀大学における任期を定めて雇用する教育職員に関する規程第2条第5項各号の規程に基づく任期の定めのない教育職員となった者について，業績審査の基準に達していない場合の降任又は解雇について説明があった。

遠藤教養教育運営機構長から，第8条第2号について，教授会で人事案件について決定することはできないので，「教授会の議に基づき」との文言にする必要があること，また，普通解雇については，使用者側が雇用を継続するための努力が必要なので，本人が教育職員から違う職種への配置換を希望した場合には，他の職種へ転換する選択肢も必要ではないかとの発言があった。

学長から，教授会での決定については，そのとおりであるとの発言があり，また，人事課長から，普通解雇の件については，今回は医学部の審査基準であり，本学の人事規程には配置転換があるので適用することはできるとの説明があった。

遠藤教養教育運営機構長から，本件の内規に「本人の申し出により，学長が配置換を行う場合はこの限りではない」といった文言を追記してはどうかとの発言があり，追加・修正することで審議の結果了承された。

2. その他

特になし

○ 報告事項

1. 中期目標・中期計画の変更について

企画評価課長から、文部科学省から通知のあった中期目標・中期計画の変更手続について事務連絡があり、地の拠点整備事業、医学系研究科の博士定員減、事務局長宿舎敷地の譲渡及び宿舎の改修に伴う長期借入金等について、学内手続を経て1月末までに文部科学省へ提出する予定である旨の報告があった。

2. 平成24年度決算検査報告説明会について

岩本理事から、12月12日、会計検査院で行われた平成24年度決算検査報告説明会で説明された事例等について報告があった。

3. 平成25年度政府予算案（佐賀大学関係）について

財務課長から、平成25年度補正予算（第1号）「経済対策」対象予定事業及び運営費交付金「復興関連事業」対象予定事業について報告があり、引き続き、桑原企画管理課長から、施設整備実施予定事業について報告があった。

4. 会計検査院実地検査の報告について

財務課長から、12月10日から13日に行われた会計検査の実地検査の講評等について報告があった。

5. 佐賀大学とユバスキュラ大学（フィンランド）との大学間学術交流・学生交流協定の締結について

国際課長から、本件について、平成25年11月に大学間の学術及び学生交流覚書を締結したこと、また、概要について報告があった。

6. 全学委員会等の審議状況報告について

特になし。

7. その他

特になし。

○ 意見交換

・佐賀大学における研究推進について

学長から、今回の意見交換では、－佐賀大学における研究推進について－をテーマとし、意見をいただきたい旨の発言があった。

次いで中島理事から、資料をもとに説明があった。

中島理事から、本学の研究については、総合研究戦略会議において、研究の方向性を定め、PDCAサイクルにより研究を推進することで、基礎的・基盤的研究及び重点領域研究の向上を図ること、また、若手研究者の育成するシステムの整備や国内外の大学・研究機関との共同研究等のネットワークを構築することが

必要であるとの発言があった。

また、中島理事から、学内研究プロジェクト及び研究シーズの実施状況や外部資金の獲得状況や本学の外部資金、科学研究費、受託研究費、共同研究費、寄附金、その他補助金等についての説明、研究戦略アドバイザリーボードを開催し、外部アドバイザーから、大型研究費を申請したが、採択に至らなかった研究者を支援する制度や若手研究者の育成方法などのアドバイスを頂いていること、研究論文に着目した日本のベンチマーキング2011について、世界での日本の論文数の順位など、また、分析による本学の評価において説明があり、戦略の1つの観点としていきたいこと、佐賀大学改革実行プランについて、本学の特色・強みを強化し、地域に必要とされる「佐賀の大学」を目指して、COC構想に重点を置き改革を進めていく必要があること等の発言があった。

遠藤教養教育運営機構長から、研究に集中するためには、時間が必要であり、若手職員等含め、研究支援について一定の期間、時間を確保できるような仕組みなどがないかとの発言があり、中島理事から、研究が進展していくと手続きも含めて、時間が必要となり、支援する体制等も検討していく必要があるのではないかとの発言があった。

学長から、本学の限りある資源の中で研究を行う必要があること、また、各学部等でインセンティブなどの仕組みを検討して頂いてもよいのではないだろうかとの発言があった。

最後に、学長から、地域に根差した研究を行い、その成果をアピールしていく必要があり、より一層広報活動を行っていく必要があるとの発言があった。

なお、次回の意見交換は、「佐賀大学のキャンパス整備、財務レポートについて(仮題)」として行うことが確認された。

以上